## 規制改革推進会議と対決 安易な企業の農業参入は、受け入れられない

の15年間の中でも、最も大変で苦 しかったように思います。 私の昨年の議員活動は、 今まで

地を貸借し、 庫県の養父市を中心に、 業経営への参入でした。特に、兵 攻撃を強めたからです。その典型 全国展開すべきという動きを始めた からの農業活性化の手段だとして、 性の向上を目指すということで、 というのは、規制改革推進会議 株式会社の農地取得による農 農業の合理化・効率化、生産 農業に参入し、これ 企業が農

としての企業参入の実態を見せてい めて養父市を訪ね、国家戦略特区 ていただいていました。そして、 たじまを訪問し、 る機会があり、とりわけ、「コウノ トリ育む農法」として知られるJA 私は、これまでも養父市を訪れ 意見交換をさせ

のだろう」と感動的な景観でした。 こられた」「大変なご苦労があった した農地で、 圧倒的な急傾斜地の小規模分散 「よくこれまで耕して

> ぶことができました。 おり、皆さんの大変なご苦労を偲 水稲や野菜が、きれいに栽培されて

ざるを得ない状況でした。 のか、採算がとれるのか、と考える 件下でどれだけ成果を実現できる や水路改修等が行なわれてきている 状況も見ました。企業が本業とは と、私の結論は「到底無理」と言わ また、企業参入後に、圃場整備 片手間で参入し、 この条

そして、これまでも苦労してこられ 認できないとの確信を強めました。 する形での企業の農業参入は、容 につけ、規制改革推進会議が主張 申し上げますが、この実態を見る た農業者の皆さんに敬意と感謝を 市長さんはじめ、役所の関係者、

担い手が助け合いながら、 の片手間の参入というのではなく 確信を深めました。 地の農業を、どう活かすか、企業 覚悟を持つた取り組みが必要だと した政策の裏付けを持った形での 我が国に多くある中山間の傾斜 JA等も含め、地域で多様な きちんと



11月19日 JA全青協の皆さんと意見交換



8月5日 コメ対策を野上農水大臣に要請

自由化 圧倒的な生産・流通・販売の コメ政策への懸念 の世界に突入 しかねない

酪農制度の改変について質疑 決算委員会で、 「酪農家の自由な販売を支援」と政府が広報

発言を行ったことから、なんとして 担当大臣が、このことを容認する ていることでした。 の酪農地帯では、大きな問題になっ るべき」と主張して、 「生乳の自由な流通・販売を認め も質疑しておきたいテーマでした。 このことは、特定の乳業会社が 当時の規制改革 北海道や関東

主張しました。 安全・安心の基本ルールであること 定されることが必要であり、 は、いたずらな生乳取引の競争を それがきちんと担保されるために 通・加工・販売が求められる中で、 本とする生乳の特性を踏まえた流 を強調し、これらに携わる乳業者 あおるのではなく、流通ル 私は、決算委員会で、 -ルに基づく生乳の取り扱いを 生鮮を基 それが -トが特

進会議の主張をそのまま受け入れ る形で「酪農家の自由な販売を支 また、私は、政府が規制改革推

> よる安定流通と、生乳の安全・安 な混乱を生じさせることを指摘し 心を壊しかねないものであり、 について、そのことが、 的に紙面を飾ることがなされたこと 援」とする新聞広告を出し、大々 指定団体に 4月19日 決算委員会で生乳改革について質疑

行しかねない動きを、政府は断じて 安心を守っているのです。それに逆 ら始まり、そして乳業者が、 流通・販売に全力をあげて、安全・ 行うべきではないのです。 国民への食の提供は、生産者か 加工・

> 配分を行っていないのです。かつて の世界に突入してしまうのでないか 倒的な生産・流通・販売の自由化 びにJAの取り組みを超えて、圧 支援は行わず、 達成と連動した形での転作推進の の生産調整の目標の配分と、 から都道府県への生産数量目標の との危惧を、私は今、抱いています。 入れも行っていないのです。 というのは、 コメ政策は、これまでの政府なら 国は、平成30年産 過剰時の政府買い その

府が設定した枠内で、事前に買い 入れているだけです。 今は、備蓄に充てる数量を、政

混乱し、 環境下にあるのです。 弾力化しているのであって、 いうか、生産・販売は、圧倒的に まさに、政府によるコメの管理と 価格も流動化するという 需給が

主食たるコメについて、そういうこ 業者の混乱を生ずることになる。 米価の下落と、地域、そして、 とでいいのか。このことをしっかり整 もちろん、JAは、これまでもコ 一体、どこに向かうのか、国民の 覚悟しておかないと大変な 農

きた立場から、 メの生産・流通・販売にかかわって

> のです。 いますが、コメの流通・販売は多様 れるような、 化しており、 大暴落が生じかねない 25・26年産米にみら

絵が示されていないのです。 も考えていないのではないか。自由 描いているのかどうか心配です。 まで詰めた議論を、需給や価格、 な流通に委ねるということなのか、 JAや政府の役割について構図を 果たして、誰が、どこで、どこ

米価は暴落、農地は荒れ放題にな 生産者やJA等団体も立っていられ だとしたら、大変なことになる。 ないのだ」ということで考えているの が出てくるのだ」「大幅な米価下落 流通・販売、そして在庫等の問題 な生産、流通の世界に入っていく。 なくなる。そして、コメは、自由 大切な農地の扱いも大混乱する。 を経験しないと問題の解決になら 「これから、 必要なコメの生産

そして、 を描かねばならないのです。 本の農業・農村が壊れる前に、 主食たる米の安定供給のことを、 国の在り方とも関連して、 こんなことでいいのでしょうか。 国土の保全のことを、 国民の

しつかり取り組んで